

宮古市では、昨年、市民交流センター、市庁舎、保健センターの3つの機能を集約した地域防災拠点施設「イーストピアみやこ」が整備されました。

この新たな施設のあり方や、旧市庁舎跡地の活用方法、そしてこれらを核とする中心市街地に賑わいを産み出すためのアイデアを話し合うため、2014年11月に「まちづくり市民会議」という、市民の集まりが組織され、活動が始まりました。

2015年12月からは、初年度に示されたアイデアの具体化を目指して、「まちづくり市民会議season2」(第2期)の活動を開始。市民ワークショップを計7回実施し、2016年11月に中心市街地を会場として、アイデアを実践する場「みやこ・わくわくストリート2016」を開催、多くの市民の皆さんに参加していただきました。それ以降、2017年には「season3」(第3期)、2018年には「season4」(第4期)と、いろいろな市民のグループと連携しながら、活動を続けてきました。

今年度は、これまでに育まれた活動の蓄積を生かし、さらに連携の輪を広げながら続けていくことを目指して「season5」(第5期)の活動を始めることになりました。これから、その活動の様子を、この「かわら版」で紹介していきます。

5月25日 season5 第1回ワークショップを開催

2019年5月25日(土)14時より、イーストピアみやこで、season5(第5期)第1回目の市民ワークショップが開催されました。今回のテーマは「“まち育て”にチャレンジ!人と人がつながって」。当日は、高校生、大学生を含むの32名の皆さんに参加していただきました。当日の様子は、まちづくり市民会議facebookページに掲載されています。

<https://www.facebook.com/miyakowakuwaku/>

これまでの活動の振り返り・末広町通りの整備計画の紹介

今回が初参加の方もたくさんいることから、ワークショップに先立ち、座長を務める岩手県立大学の内田先生から、これまでの活動を振り返って報告していただきました。昨年11月に開催された「みやこ・わくわくストリート2018」の様子も紹介されました。

引き続き内田先生から、現在検討が進められている、末広町通りの整備計画についての話題提供がありました。車の走行できる部分の幅を抑えてゆるやかに蛇行するようにし、歩行者が安心して歩ける通りとするなど、計画の概要が紹介されました。また、今年の「わくわくストリート」開催に合わせて、車が走行できる部分を一時的に制限する社会実験を行う予定で、広くなった歩行者ゾーンを利用するアイデアを考えてほしいとのお話がありました。



弘前大学の北原先生からのお話「“まち育て”のススメ」

グループごとの話し合いに先立ち、弘前大学の北原啓司先生より、「“まち育て”のススメ」と題した基調講演が行われました。以下に、その概要を示します。

これまでの「まちづくり」は、「つくる人」…つまり行政が主体で、市民は与えられたものをほめたり文句を言うだけの、受け身の参加でした。でも、そのまちに暮らす市民の皆さんは、「つくる」プロではないですが、「たべる」側のプロです。「つくる」人と「たべる」人とが、お互いの役割を尊重し合いながら、新しい関係をつくっていくことが大切です。まちづくりに必要な視点は、まちを「たべる人」の視点です。「空間」に人々の想いと生き活きとした行為が加わると、そこは「場所」になります。自分たちの「場所」をつくっていきましょう！



グループごとに自由に話し合い～次回以降に向けて

今期の活動は10月27日（日）に「みやこわくわくストリート2019」としての実施を目指して進めていくことを確認した後、5つのグループに分かれて話し合いを行いました。

各グループごとに「まちなかであんなふうに過ごしたい」「こんなことをしてみたい」という視点で、自由に話し合いました。それぞれのメンバーが、意見やアイデアをポストイットに書き、模造紙に貼り出しながら、意見交換をしました。

その後、チームごとに話し合った結果を発表し、参加者全員で共有しました。最後に、北原先生から講評をいただき、第1回の市民ワークショップを終了しました。



今後の予定

次回のワークショップでは「まち歩き」を行う予定です。実際にまちなかを歩いてみて、どのようなことができるか、より具体的なイメージを生み出すための機会にしたいと考えています。

参加は自由です。興味のあるお知り合いの方がいましたら、ぜひお誘いください。

まちづくり市民会議 season5 第2回ワークショップ

- ・日時：2019年6月22日（土）
14:00～17:00
- ・場所：イーストピアみやこ

問合せ先：宮古市復興推進課 tel.0193-68-9096